教訓
女房形氣

十九編上下

安政六未年
彩板山左 壽梓

九十一番

京山作

國貞画

一貫齋

へ13
3703
19

教学女房形気

十九屋ん
との亀

十九へん
下の亀

門へ13
號3703
巻19

教草女房形氣十九編 よみ始め

○兒を育る人毎日心不休

米を作る人粒々皆辛苦

聖人の教み父を天みたゝえ母を地みたゝえ頭み冠する雲の上人もあるゝ手武かぶる雲ゆも

一日もなくてかなわぬ米をそだて家を作りそ為居をなす枕木のるゝ石瓦又ハ身み着るきるものゝ人間第一の衣食住皆地より出る物あり又世の中の空とぶる錢金も元ハ地より生ずる物あり

○扨もく萬物み長る人間ハ天みたゝへる父の陽氣の亂地みたゝえる母の胎内み

米のなりぶり百姓いとなむ田の艸をぬく

やどし母の精気をそなへ人のこらず十月そだつて
めでたく生まれつきまたまたまたまち地に稲の
たねをもつて粒々辛苦して米をあがめ
○さて日でりつづきて田の水まつたく辛苦を
尽したる稲の枯かゝる百姓のなげき乳汁
とゝくして我が子の痩るを見る母のかなしさ
○法花珠林とゝ佛昏に中陰經と
佛の經文を引て曰釈迦如来弥勒并に
諸仏の乳を飲ハらゝ弥勒
百八十斛あり母の食
四分一をのゝく此乳汁のゝとゝ
如来母の墓のうち千拝をあつあつと
今の赤兒も三歳のの日
数八千八十日あり夜昼一合づの乳を飲として三七

母の恩を知る尽し○さて子を育る乳汁
米のあるとおもへ此ごろハ母のかなしも
足なへ人みなく笑ふあつしさもちてそ
れが痩るを昼いまもあまと夜みりて
乳をのゝ飲ればうつくしくも
夜みなく子をなくこゝいまそ立るの
門口にかくたきあつまりとと
声をひくげふ心づひ今祈りつきたる耳を

聞つけて門口へたどりつき雪のつゐ立
かゞ[illegible]さふとこゝろ[illegible]八子ゆゑ親も
ゐるぞの夜の霍子のゐるき
声ゆ目をさ[illegible]「おやせさん久
今あけるよと内ゝゝ声ゝみられ」
嬉さ[illegible]子やあの間の夜ん

○母い子をそだてることかくのごと
ゐるべバ母の恩父ゆまたゐると
かゝるべれど然ゆあるべ六ッ
出ぶ母の手ゆ育られ夫ゝ父ゆ養れ手習元服
嫁ゝ家督とつゞけ[illegible]その日ゞ[illegible]の負ゐる親ハ
[illegible]ゐゝゆ一生の身をゝゐゐ父の恩ゐゝ
○万物の長ゐ人ゆ生まゐゝ孝行の孝の字も

不孝のむ生ゝ

[illegible]親のいゐ[illegible]少しゆ耳ゆ[illegible]親の[illegible]
ゆ義理をたゞ不孝同士六中よりも又ゐゐ親ハ
宿ゆ子をあゝ子ゆ遊里で親を奢侈ゆ[illegible]ゆ来の道段をゐゝ
ゐゝ[illegible]ゆ[illegible]朝ゆ食好ゝ[illegible]
親の脛ゆかゝゐ世間のむ[illegible]子百人よ世ゝ九十人いゐ[illegible]
○さて又女ゆ地ゆたゝ[illegible]閉ゐゝゐ静ゐ
静ゐゝゐ[illegible]

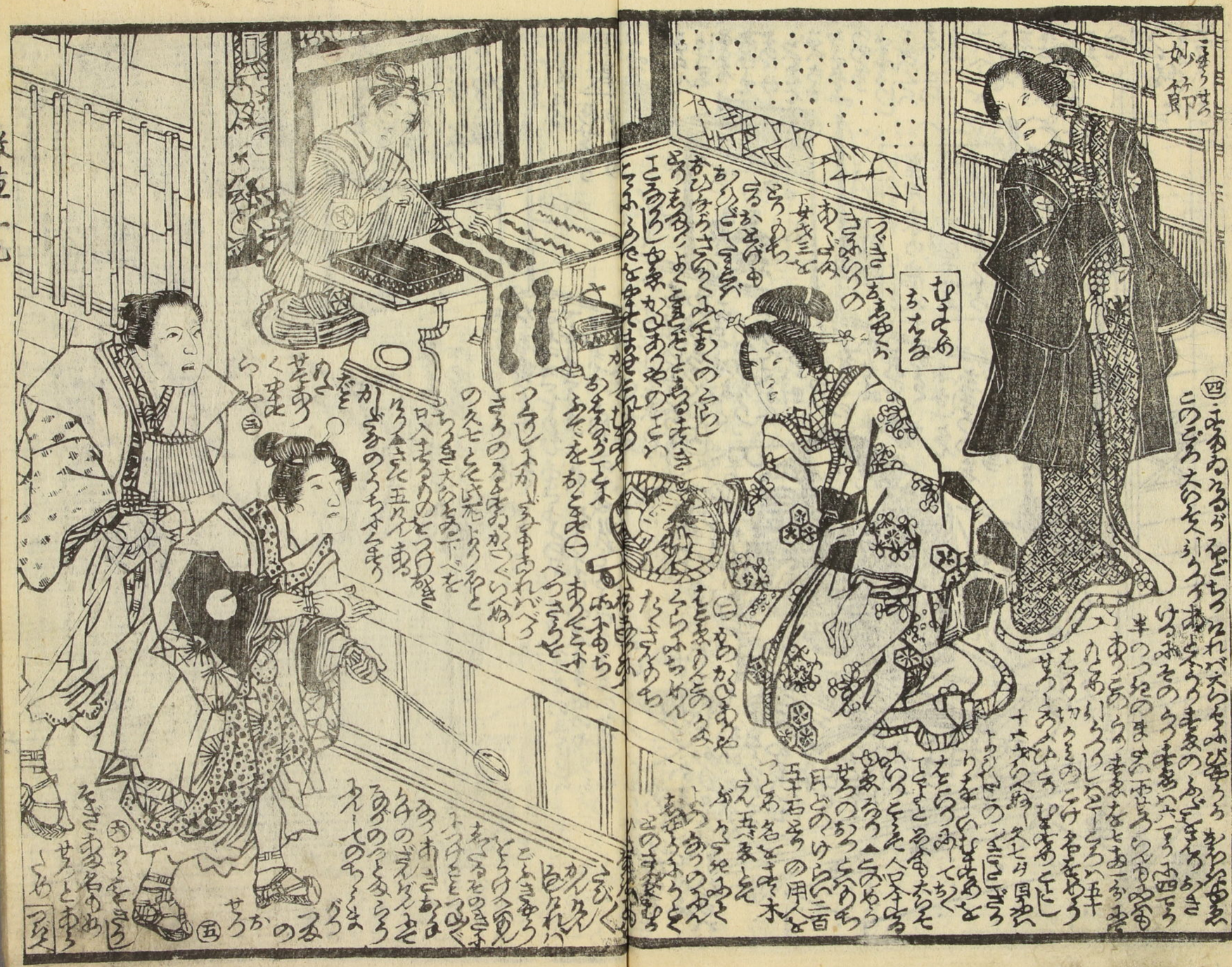
○[illegible]ゆ[illegible]ゐ女の子ハ女同士ゆ[illegible]
○[illegible]ゆ[illegible]ゐ娘ゐゝ母ゆ孝ゐ尽ゝ十八
歳ゐ母の敵を討ゐゐ此十九編の
華のつゐ[illegible]
水ゐゐハ[illegible]ゐ子の
通ゆ渡らんゝゝ[illegible]

安政五年午
卯月廿五日

九十八翁京山

乳のみ子の母

女房形気十九編本文
初段
望月家の浪人
後家


妙節
むすめ
ちよん
つぎ

忠僕神助

此所ゆのちの巻に下の巻に有

甲原垣蔵

妙せう

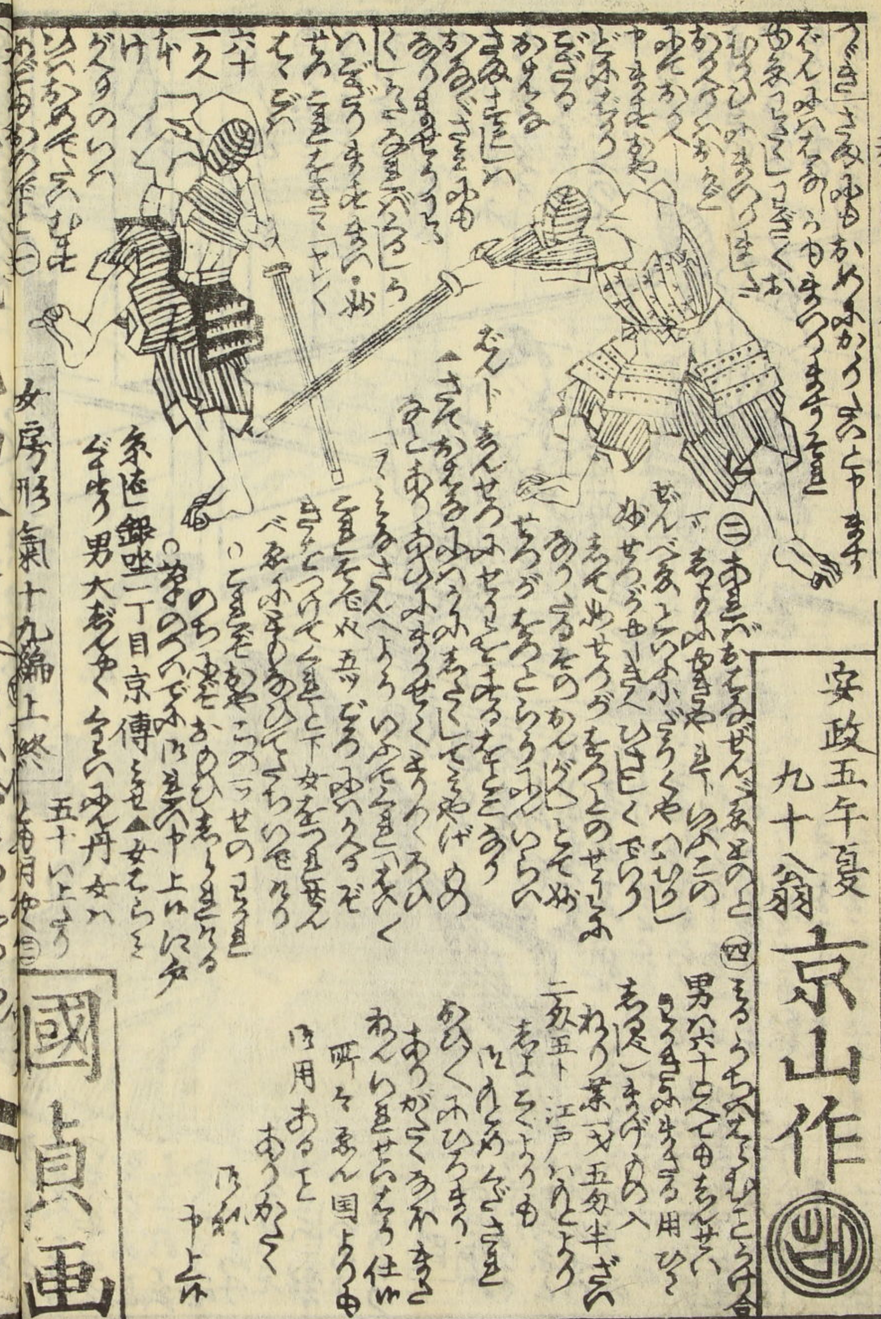
三段

四段

小道具屋
せんへい
五段

おふくろ
おかね
おかね
おかね

七段



安政五午夏
九十翁 京山作

國貞画

女房形氣十九編上終

女房形氣十九編卷之下

八段

八段
やごさぶろのおかあ
春うかたる
今で川のかちまう
母おとう
かひあるやうめ
かひの
九段
ひまりやせぶれ
かな太郎

十段

かく太郎

十一段

十二段

おとる

今で川の
長ー

内でー
年藏

其二

内でー
金五

かる太郎

かひる
かる太郎
十八段
十九段

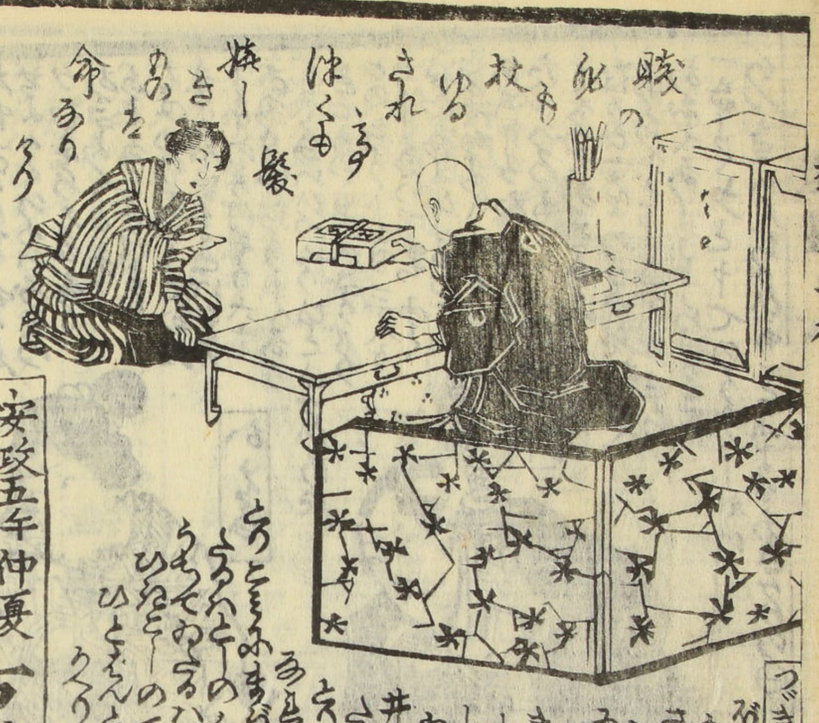
井原垣藏

山中又藏

つぎ
世段
かんてき

世一段
金吾
くま蔵
高砂一曲齊

おたつ
かる太郎



安政五年仲夏
九十歳 京山作 國貞画

つぎ十七ページ

春閑錦目録

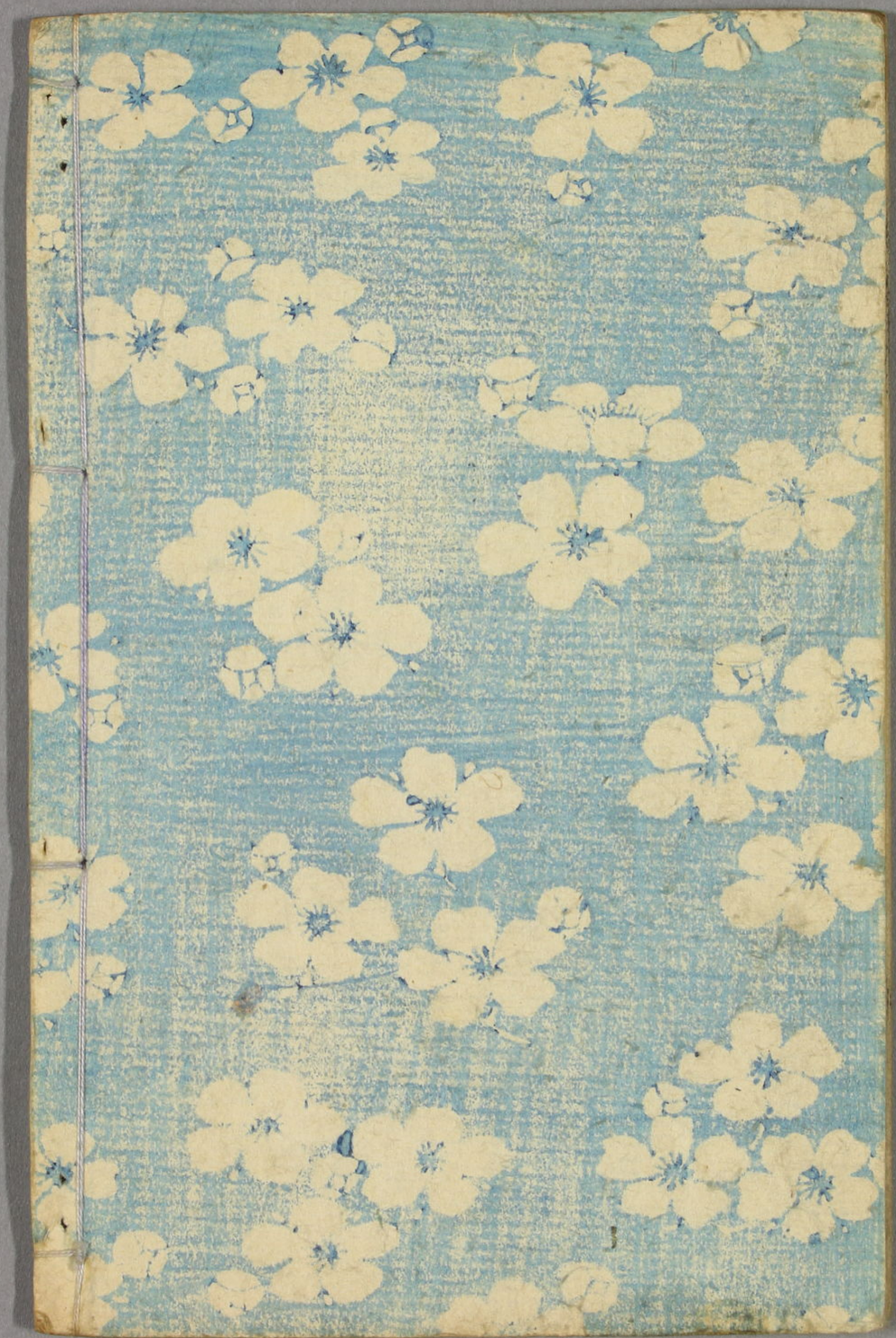
御所櫻梅松録 六編より鶴亭秀賀作 錦絵三編ッヅ 豫約特製彩色画

梅の本御再誕記を誌す

教草女房形氣 三編 秀賀作 古編 國貞画

花委紙草紙 三編 芳虎画

童會年越鑑 四編 曳文作 三編 芳虎画

日記 二編 應賀作 三編 芳虎画

仝 地本錦繪問屋 錦橋堂 山田屋庄次郎板